

第1回熟議のグループ協議で話し合われた内容

八峰CS通信

平成29年度
第11号
H29/9/14
文責
CSディレクター
川尻

学校行事や総合的な学習など心を育てる体験活動の小中連携

- ・八峰町は自然に恵まれ、人に恵まれ豊かな活動ができる
- ・教員が地域のよさを知ること・何を学習材にできるか探すことが必要
- ・心を育てるコンセプトは何か 心を育てるビジョンが必要
- ・社会性を育てる(子どもが一人でゲーム) 実体験をさせる 地域の人が必要
- ・体験活動の授業時数確保、準備の労力等がネック 専門職や年間計画が必要
- ・学校は忙しく、人手不足、モチベーションを維持するのも大変
- ・地域の人とのマッチング、協力してくれる人材リストづくり
- ・小中一緒の体験=小中双方向の関係(小は中に聞く、中が小に教えるシステムづくり)
- ・全体で動くプロジェクトがあればいい

教員研修, 学習のきまりや家庭学習など学習指導の小中連携

- ・学校の中にとどめないこと 学びを生かす場を外に・学びに地域の力を
- ・隣の学校と足並みをそろえる
- ・小中の学習のきまりを徹底することで生き生きとした学びに
- ・9年間を見通した学びのルール統一 親にもわかってもらえるように
- ・親同士の情報交換に八峰P連の活用を
- ・子ども園で小学校の学びを知ること、幼児教育の方向が見える
- ・子ども同士の授業交流で、中学校の先輩の姿を小学生に見せる

児童生徒の安全確保や生活のきまりなど生徒指導の小中連携

- ・八峰町の特徴=学区が広い・他地域がわからない・熊ができる 危険を知らせる方法
- ・あいさつが少ない 地域の人と元気にあいさつする子どもに 全町あいさつ週間
- ・地域での見守りやあいさつ励行 地域の方やPTAによる街頭指導
- ・地域のお年寄りの強力なバックアップが必要(ジジババ検定?)
- ・メディア教育に課題が見えてきた 子どもにスマホを配布して使用方法を指導する
- ・自転車の乗り方が心配 小学生にもヘルメットを配る
- ・子どもの姿が見えない、休日にもスマホやゲームで遊んでいる
- ・地域の人による声かけが必要 地域への情報発信 校報配布等



ちよつと寒かったけど、家族が見守る中、元気に水泳記録会 (峰浜小)

すべては子どもたちのために
八峰町が誕生したのは11年前の平成18年ですが、その当時の八峰町には小学校が6校、中学校が2校ありました。現在は3校です。小中学校がある地域やあつた地域においては小中学校が地域のシンボルでありますので、八峰町全体においては、小中学校が小さくなつた分だけ地域の元気が小さくなつていたり、学校と地域とのつながりが弱くなつてきていると思えます。したがってこれからは、子ども

森田新一郎

はいつの時代においても宝物であり、次時代の親になる方々です。すべては子どもたちのために」という基本的な考え方に立って、地域住民である我々みんなが、双方向で学校との連携を強めていく必要があります。そして、生まれるところを選べない子どもたちが、八峰町に生まれて良かったと思えるように、地域ぐるみで子どもたちの良いところを探して、見つけて、伸ばしていくことが大切であると考えます。

2学期が始まり、学校を訪れた際、また子どもたちの元気なあいさつと活気ある授業と出会い、うれしい気持ちになります。第1回熟議の際、

グループ協議で話し合われた内容をテーマ毎にまとめてみました。これらを基に、各校の学校経営やコミュニケーション・スキルとしての実践に役立てられるよう、第2回学校運営協議会に提案したい

とおもいます。また、委員の皆様が八峰CS通信を活用して、意見交流できるよう、御意見を募集しています。さっそく、会長の森田さんからいただきましたので紹介します。



短期チャレンジ留学で全国各地から訪れた友達と仲間交流 (八森小)



地域の方の協力を得て、たくさん集まった空き缶回収 (八峰中)